No 69

野生動物
1998. 19(4)

山東省のカササギの減少

高　翔
山東臨沂教育学院
訳　福井和二

1950年60年代には，山東省のほとんどの地域の村々で少なくとも3～5巣，多いときは14～15巣のカササギ(*Pica pica*)の巣を見かけたものである．人々は毎日明け方から，チャッチャッチャという澄んだ歯切れのよい，カササギの鳴き声をを伴侶として暮らしてきた．70年代より始まった，魯南*地区の平野地帯の臨沂(リンイ)・臨沐・鄆城(エンジョウ)・蒼山などの県や市ではカササギの数が減少しはじめた．今日なお，カササギは見ることはまれであり，日ごろ村のなかでカササギの鳴き声を聴くことができず，巣を見ることはほとんど無くなってしまった．

筆者は1990年から毎年出張，あるいは学生を伴う実習の折り，山東省の東部，中部，南部地区を，列車，自動車などに乗って，線路，道路の両側の各2.5km以内のカササギの巣を観察した．その結果(表1)発見したことは，もしカササギの巣の数をもってカササギの個体数を推測することを，よしとされるならば，すなわち山東南部魯南平野地区のカササギはほとんど跡を断ったとみられ．南東から西北にかけ少しづつ増え，沂蒙山地にはかなりの数が，泰山山地は最も多く分布しており，曲阜から泰安をふくむ兗州(ヤンシュウ)平野一帯にもカササギは少なくない．全山東のカササギの分布状況は平野部より山間地に多く，東南部より中部に多い．しかし，同じ平原野部でも，その違いは大きく，例えば魯中地域と魯南平野を比較すると，その違いは大きい．なぜこんなに大きな差があるのか？　筆者の調査を分析することにより環境汚染の程度に関係があると考えられる．魯南平野では60年代から圃場改良が進み，ほとんどの田圃が乾田化し，稲の害虫が多発したため農薬の散布が日常化した．このため絶えず，田圃に大量の農薬が残留し，空気中の濃度さえ高くなることがある．農薬の臭いでカササギはいち早く，農薬の汚染の少ない中部山地へ移っていった．ところによっては，農薬の大量噴霧によりカササギの繁殖に必要な餌である昆虫を皆殺しにし，カササギは食物を得ることができず，やむなく移動していった．そして魯中地域の曲阜，兗州，肥城から泰安にいたるトウモロコシ作付け地帯の農薬の使用量の少ない，空気が清浄で，昆虫も比較的多いこの地をカササギは安住の地とした．しかし，当地の住民によると五，六十年代に比較すると多数の村々でカササギの巣は減少していると言っている．ただ，山東中部の泰沂山地では，カササギの分布は，五，六十年代に比較して大きな変動はない．ただし，果樹栽培の多い地方の農村ではカササギの巣を見ることが無く，その原因もまた，農薬の汚染によるものと思われる．関係機

関はこの状況を重視しなければならない.

表1. 山東地区各部のカササギの巣の調査状況

路線			巣の数	路線			巣の数	路線			巣の数
起点		終点		起点		終点		起点		終点	
臨沂	→	臨沭	無	諸城	→	青島	2	費県	→	平邑	10
臨沂	→	郯城	無	臨沂	→	沂水	無	平邑	→	泗水	11
臨沂	→	蒼山	無	臨沂	→	沂水	3	泗水	→	曲阜	18
蒼山	→	棗庄	無		(東路)		無	曲阜	→	兗州	21
棗庄	→	滕州	無	沂水	→	沂源	17	兗州	→	泰安	40
滕州	→	兗州	3	沂源	→	淄博	8	泰安	→	済南	87
臨沂	→	莒南	無	淄博	→	済南	23	臨沂	→	蒙陰	5
莒南	→	日照	5	臨沂	→	莒県	4	蒙陰	→	新太	13
日照	→	五蓮	3	臨沂	→	費県	2	新太	→	泰安	9
五蓮	→	諸城	6								

訳注

魯とは，山東地方の別称で，日本における武蔵，房州，上州などの言い方と同様である.